INFORMATION

●開館時間　9：00～17：15（入館は16：45まで）

●休館日　月曜日（祝日の場合はその翌日）、年末年始（12月28日～1月4日）

●観覧料

区　分	おとな	高校生	こども(小・中学生)
科学展示室	410円 (330円)	100円 (80円)	100円 (80円)
プラネタリウム	500円 (400円)	350円 (280円)	250円 (200円)
全天周映画	500円 (400円)	350円 (280円)	250円 (200円)

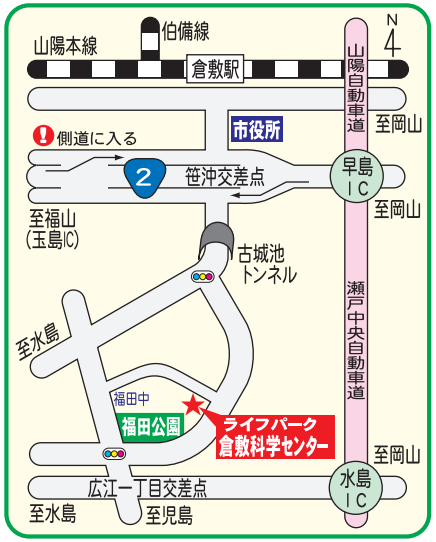
◆幼児は無料（ただし大人の保護者同伴のこと）
65歳以上の高齢者は無料
下段青字は団体料金（20名以上）

●プラネタリウム投映スケジュール

土日・祝日	10:30～	全天周映画
	11:40～	プラネタリウム
	12:50～	全天周映画
	14:00～	プラネタリウム
	15:10～	全天周映画
	16:20～	プラネタリウム

火～金	15:10～	全天周映画
	16:20～	プラネタリウム

◆定員160名、各回入れ替え制。投映中の入退場はご遠慮ください。
◆小・中学校及び幼稚園等の春・夏・冬休み期間中は、火～金曜日も、土・日曜日と同じ投映スケジュールとなります。
◆各作品の上映時刻は日によって変わります。当館ホームページかお電話で最新の開館状況をご確認ください。



ACCESS

◆ＪＲ倉敷駅からタクシー　25分
◆ＪＲ倉敷駅からバス　25分
〇下電バス『大高経由ＪＲ児島駅行』
ライフパーク倉敷西入口下車・徒歩20分
◆国道２号線　笹沖交差点から車で15分
（古城池トンネルを抜けて最初の信号を左折）
◆瀬戸中央自動車道　水島ＩＣから車で15分
（広江一丁目交差点を右折後、最初の信号を右折）

倉敷科学センター
〒712-8046　倉敷市福田町古新田940　ライフパーク倉敷
TEL (086)454-0300 ／ FAX (086)454-0304
https://kurakagaku.jp

星尋（せいじん）山荘の脇にある碑

プラネタリウム（今夜の星座解説つき）

PLANETARIUM

テーマプログラム

星（ほし）へものをたずねて

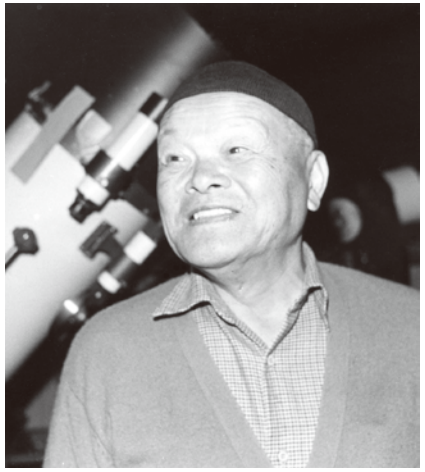
～倉敷天文台・本田実物語（くらしきてんもんだい　ほんだ　みのるものがたり）～

2023.11.11～11.19
（土曜・日曜の11：40より上映）

KURASHIKI SCIENCE CENTER
倉敷科学センター

星へものをたずねて
～倉敷天文台・本田実物語～

（2005年制作）



倉敷天文台で、戦後次々と彗星や新星を発見し、天体発見王とも呼ばれたアマチュア天文家・本田実。生涯に発見した新彗星12個・新星11個という偉大な業績は、いまなお、天文学の世界で光り輝いています。

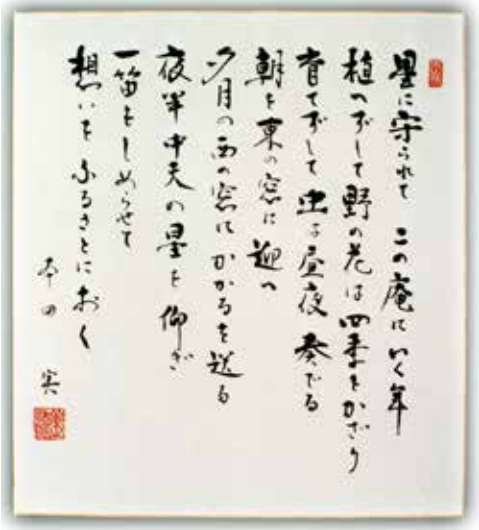
10歳のころから星に興味をもった本田さんは、その後、ひたすら一途に星を見ることに生涯を捧げ、そのパワーと情熱は超人的とすら言われました。また一方で、若竹の園という保育園の園長を勤めたり、書や詩歌をたしなんだり、その生きざまは天文家のみならず多くの人々に影響を与えました。

この番組では、子どものような純粋さで星と自然を愛し続けた本田さんの人生を振り返りながら、本田さんの熱いメッセージを紹介していきます。

原澄治・本田実記念館の入口に掲げられた原氏の書「銀河千里を貫く」。“銀河”は“熱情”をも意味し、熱い情熱が人を動かし、この倉敷天文台が誕生したことを表す。

本田実のあゆみ

1913. 2.26	鳥取県八頭郡八東村に農家の長男として生まれる。
1927ごろ	直径28ミリのレンズを購入し望遠鏡を自作。
1930ごろ	神田 茂 著『彗星の話』を読み彗星探しを決意。
1932	花山天文台にレンズの反射光を彗星と誤って報告。これがきっかけとなり、花山天文台長山本一清博士の指導を受けることになる。
1936.12. 2	山本博士が開設した広島県瀬戸村（現福山市）の黄道光観測所の観測員となる。
1940.10. 4	初めての新彗星「岡林・本田彗星」を発見。
1941. 4. 1	倉敷天文台台員として着任する。
1941. 7.30	慧（さとる）夫人と結婚。
1941. 8. 1	応召（中国東北部、シンガポール作戦等に従軍）
1942. 5	戦地で拾ったレンズで望遠鏡を作り周期彗星を発見。
1947.11.14	戦後初の新彗星「本田彗星」を発見。
1967. 7.28	若竹の園（保育園）の園長に就任。
1970. 2.14	初めての新星「へび座新星」を発見。
1981. 6.16	賀陽町（現吉備中央町）に観測小屋を建設。
1988.10. 3	上記観測小屋を「星尋山荘」と名付ける。
1990. 8.26	没（77歳） 倉敷市名誉市民証を贈られる。



晩年に建てた観測小屋「星尋山荘」（左）とそこでの様子を詠んだ本田氏自筆の詩（上）

倉敷天文台と本田実

倉敷天文台は、1926年(大正15年)に原澄治が私財を投じて設立した日本初の民間天文台です。原氏は、山本一清博士(京都大学花山天文台長)や岡山県のアマチュア天文家・水野千里氏が、一般の人々も利用できる天文台の必要性を力説していたのに共感し、当時としては国内最大級の口径32cm反射望遠鏡（現・市指定重要文化財）をイギリスから購入し、天文台を開設しました。当時の日本では、天文台は官立の３施設のみで公開天文台という概念すらありませんでしたから、誰もが無料で利用できる倉敷天文台の誕生は、実に画期的なことでした。本田実は1941年に倉敷天文台台員となり、亡くなるまでここで活躍を続けました。

現在、原澄治と本田実は倉敷市名誉市民となり、倉敷天文台の一角に「原澄治・本田実記念館」が開設されています。

本田実（左）と 原澄治（右）

原澄治・本田実記念館の２階